



谷川連峰 小出俣山

—五十嵐

【日時】 2011年3月5日(土)～6日(日)

【メンバー】L五十嵐、高山、金沢

谷川岳の北東に馬蹄形と呼ばれるルートがあるが、南西に少し離れた場所にスケールダウンした馬蹄形ルートがある。雪のある時期にしか歩けない「馬蹄形」に出かけた。

3月5日(土) 晴れ

前夜、水上ICを下りると吹雪。道の駅水上町水紀行館でテントを張る予定だったが、風と雪の強さに阻まれて土合駅泊に変更する。寝るだけのために30分ほど遠出するはめになったが、降雪のなかのテント設営・撤収を考えれば時間の節約になる、はずであった。結果、土合駅入り口で車がスタック。翌朝に「雪道お助け隊(水上の6つのスキー場で共同運営)」に助けられてようやく出発できた。

川古温泉手前の駐車スペースに車を停めて出発。ゲートをまたいで林道に入ると雪道となる。除雪されて歩きやすかったのは貯水池までで、その先はラッセルとなる。風は冷たいが日射しはあたたかい。千曲平の杉林に着いた時点で、出発時間も遅かったし、このペースでは阿能川岳どころか小出俣山までも辿りつけないかもしれないという話になる。それでも、この先の挽回があるかもしれないとオゼノ尾根に取り付く。尾根の傾斜は緩くはない。典型的なモナカ雪だ。金沢さんのパワフルなラッセルに助けられて高度を稼ぐ。とりあえず14時までと時間を区切って歩き続ける。

「トマの風年報NO.10」には、ルートの途中に危ういトラバースがある、と記されている。14時までぐいぐい歩いたが、トラバースを越えた先にはいいテン場がなさそうだと判断、時間は早いが幕とする。

琥珀色の液体を飲みながらゆっくりと水作り。そしてトマ名物のつまみ合戦。いつのまにか夕焼けも見逃して星空となる。明日はこのまま下りてしまっても・・・という雰囲気になりかけたが、高山さんが「小出俣山頂を踏むには4時半に起床」と一喝。そそくさと寝る準備をする。

3月6日(日) 晴れ

朝一番は雪も締りラッセルもラクだと予想したが、一歩目でズボツともぐる。そう甘くはない。危ういトラバースらしき箇所は、記録では左側を通過しているが、右側を斜上する。雪の着き方によるのだろうが、このときはザイルを出すほどではなかった。アタック装備のせいもあって体が軽くペースが早まり、ようやく高度感が出てきた。俎嵐

の稜線が見え始め、おーっ、かっこいい！ と声が出る。テント場を出発して2時間後、小出俣山頂に立つ。北には俎嶮、東には阿能川岳へとのびやかな稜線が続いている。あそこを歩きたかったなと後ろ髪を惹かれつつ、来た道を引き返した。

林道に戻ると、昨日は一面真っ白の道だったがのが、砂利道が半分ほど出ていた。もしやと雪と砂利の境目を見て歩けばフキが。ひとつだけ春を収穫して帰途についた。

【行程】

3/5 ゲート(08:50)～千曲平手前分岐(10:22/35)～尾根末端取付(11:00/11:10) 1340m
地点(14:00)

3/6 1340m地点(06:20)～小出俣山頂(08:20/40)～1340m地点(9:00/45)～千曲(10:25)
～ゲート(11:36)

【地形図】水上



↑危ういトラバース箇所を斜上する



↑ヒザ下ラッセルが続くオゼノ尾根



↑俎嶮山稜の雄姿



↑小出俣山登頂！